

Press Release



BASF、2010 年も研究開発支出を高水準で維持

- 「利益ある成長」の基盤としての長期的な研究開発戦略
- 幅広い社外協力関係によるグローバルな研究フェアレントが競争力を強化
- ハイデルベルグ大学の触媒研究所へ 5 年間の資金提供延長を決定

BASF(本社:ドイツ ルートヴィヒスハーフェン)はこのほど、2010 年も研究予算を前年同様高水準に保ち、総額 13 億 8,000 万ユーロ程度とする計画であることを発表しました。なお、2009 年の BASF の研究費は 2008 年の 13 億 5,000 万ユーロをわずかながら上回る約 14 億ユーロでした。

BASF 取締役兼リサーチ・エグゼクティブ・ディレクターのアンドレアス・クライマイヤーは、研究開発における長期戦略について次のように述べています。「競争力を維持し市場を上回る有機的成長を実現していくためにも、イノベーションの流れを途切れさせないことが重要です。厳しい経済環境にあらうとも、私たちにとって研究開発戦略の継続が不可欠であることに変わりはありません。」

研究開発戦略のもと、BASF は既存のポートフォリオを拡充し、顧客に合わせたシステム・ソリューションを開発するとともに、世界的すう勢から生じる将来の課題に対して的確なソリューションを提供することを目指します。今後人類が直面する複雑な課題のひとつに、増大を続ける世界人口に水、食糧、エネルギー、交通・運搬手段をいかに確保し、提供していくかという問題があります。BASF では、こうした問題の解消に役立つ技術や化学に関する世界的な動きを踏まえ、戦略的研究が必要な分野として、5 つの成長クラスターを定めました。具体的には、植物バイオテクノロジー、ホワイト・バイオテクノロジー

2010 年 2 月 15 日

お問い合わせ:
BASF ジャパン株式会社
大倉 真紀
TEL: 03-3796-4865
FAX: 03-3796-4111
maki.okura@basf.com

BASF ジャパン株式会社
コーポレート・コミュニケーションズ
住所: 〒106-6121
東京都区六本木 6-10-1
六本木ヒルズ森タワー21 階
TEL: 03-3796-4865
FAX: 03-3796-4111
<http://www.japan.basf.com>

ー(工業バイオテクノロジー)、ナノテクノロジー、エネルギー管理、原料転換の5分野です。

「BASF が掲げる意欲的な研究開発目標を達成する原動力となるのは、研究開発に従事する約 9,300 人の社員です。彼らこそが、3,300 件もの多数のプロジェクトが詰まった研究開発のパイプラインから新規ビジネスを創出してくれる源なのです」とクライマイヤーは述べています。化学分野ではパラダイムのシフトが進んでいます。この分野で成功を収めるには、単に新しい分子如何というレベルにとどまらず、新しい効果、新しいシステム、新しいシステム・ソリューション、さらには新しい部品や新しい機能性材料、といったレベルにまで視野を広げ対応していかなければなりません。「こうした複雑な状況への取り組みを成功させるためには、国境や学問領域という垣根を越えた協力が必要です」とクライマイヤーは述べています。

ビジネスと科学の連携が成功をもたらす

将来的な課題への対応には国際的なナレッジ・ネットワークが重要な役割を果たします。BASF の社外機関との連携による研究の成功例として、独ルートヴィヒスハーフェンの Joint Innovation Lab における有機エレクトロニクスの研究開発、米国ハーバード大学におけるバイオフィルムの防止に関する共同研究、ハイデルベルグ大学の触媒研究所(CaRLa)などが挙げられます。

中でも、BASF とハイデルベルグ大学による共同研究所は傑出した研究拠点として、世界中の触媒研究者から注目を集めています。これまでの功績に対する高い評価を受け、CaRLa の運用期間と資金提供の 5 年間の延長が BASF、ハイデルベルグ大学、独バーデン=ヴュルテンベルク州の三者によって 2010 年初頭に決定されました。CaRLa では、企業の研究者と大学の研究者が共同で均一系触媒分野の基礎研究と応用研究を推進しています。

3 年前に創設された CaRLa は、ビジネスと科学間のネットワークを構築する画期的なパイロット・プロジェクトとして注目されてきました。「キャンパス内産

業」をモットーとするこの研究所から生み出される新しいアイデアは、BASFの研究開発部門にとっても非常に良い刺激となっています。当初予定されていた資金提供の期間では、まず、エノン類の選択的水素化とオレフィンメタセシス触媒の開発・改良など新規触媒のスクリーニングを行うプロジェクトを重点課題としました。その結果、特許の共同出願や論文の共同発表といった成果が生まれており、新規材料の開発や高効率触媒の実用化という目標の達成に近づきつつあると言えます。

BASF について

BASF(ビーエーエスエフ)は、「ザ・ケミカル・カンパニー(The Chemical Company)」を標語に掲げる世界の化学業界のリーディングカンパニーです。製品ポートフォリオは、化学品、プラスチック製品、高機能製品、農業関連製品、ファインケミカル製品、石油・ガスから構成されています。信頼に応えるパートナー企業として、あらゆる業界のお客様のさらなる成功をサポートしています。BASF は、高付加価値製品と高度なソリューションの提供を通し、気候保全やエネルギー効率の向上、栄養、モビリティの改善などの世界的な課題の解決に重要な役割を果たしています。2008 年は 620 億ユーロ以上の売上高を計上、2008 年末時点での従業員数は約 9 万 7,000 人です。BASF のホームページアドレスは、www.basf.com(英語)、BASF ジャパンのホームページアドレスは、www.japan.basf.com(日本語)です。